『河原林安左衛門日記』(三)

――丹波山国農兵隊親兵組の日記――

高久嶺之介

翻刻にあたっての凡例は次の通りである。

一　翻刻にあたって、原文に句読点を付した。

一　異体字・俗字・略字・合字・明白な誤字などは原則として正字の常用字体に改め、変体仮名は現行の字体に改めたが、江・者・茂・而・与・連・ゟ（より）はそのまま用いた。

一　当時の慣用句については逐一注記しなかった。

一　原文中の墨抹は、文字の左側に〝〟を付し、書き改めた文字のある場合、右横に書き改めた文字を〔　〕で示した。

一　朱筆の文字は〈　〉で囲み、朱筆の〇、△は右横に〈朱〉を入れた。また朱筆傍線は傍線の右横に〈朱〉を入れた。

一　金銭出納覚には、墨印や朱印で㊟、㊞、㊞、㊞、㊞、相済などの印がある。㊞、㊞、相済はすべて墨印、㊟、㊞は朱印の場合が多いが、墨印の場合もある。しかし、墨印の場合と朱印の場合とで明確な意味の違いはみうけられないことから、墨印、朱印の区別はすべて略した。また、㊟、㊞、㊞、㊞、相済以外の印はすべて㊞とした。

一　貼紙の部分は「　」で囲んで示した。

一　編者による校訂は（　）で囲んで示した。

一　欠字・平出は一字あきとした。
一　原本で改行している所はそのまま改行したが、翻刻にあたって、一部日付部分で改行したところがある。
一　判読不能の文字は、字数の明らかなものは字数分を□で示し、不明のものは〔　〕で示した。

（表紙）

明治元年　　㊀

日　記　帳

辰九月吉日　　〈三番〉

九月廿五日。上天気。
一丹後久美浜県ゟ幕府ゟ御免ニ相成罷居候苗字帯刀人之者、来廿五日迄ニ由緒取調書池上出張役所へ差出し可申様廻達有之候ニ付、山国郷名主行事役ゟ高田寺参会相催候間、八ケ村本家出席。種々示談之上、来ル廿七日ニ者池上出張役所江名主之由緒取調書差出し可申相談ニ相極り、尤惣代として鳥居村辻氏、下村忠助、塔村高室治左ヱ門、井戸村江口丈右衛門、当春七ケ村ゟ小堀江差出し候由緒書有之ニ付、其通りを以惣代持参可致様相談相極り、其旨一統承知ニ而銘々帰村之事。
廿七日。中上天気。尚又久美浜県出張役所ゟ押而右之由緒取調書急々可差出候様廻達有之候ニ付、尚又高田寺参会相催ニ相成、則水口氏御帰宅ニ付、右之相談、且又半納之示談も致度急参会有之候得共、銘々無拠差支有之ニ付、大野村惣代ニ同家宗十郎名代ニ出席。右之次第種々之示談。近日之内久美浜県伊尾野氏用向ニ付上京之趣、其節水口氏半納之儀始種々内願之示談可有之手筈ニ相頼置、将又名主由緒書之儀ハ惣代として改八ケ村ゟ河原林大和守、辻彦六郎、両人来ル廿九日ニ池上出張役所江罷出、則由緒書持参可致約定ニ而相談相極り、皆々帰宅之趣ニ而御座候。
　但し、右之義翌日廿八日宗十郎ゟ拙者江歩行を以申来り候事。
廿九日。上天気。早朝ゟ拙者池上江出張之支度、則拙村

ニ而人足無之ニ付、拙者、鳥居村辻氏江立寄、則由緒書之儀鳥居氏相認有之候ニ付取寄持参。尤人足、辻氏家来召連、彼是四ツ時ゟ右拙者、辻三人同伴仕、宇津栃本村五兵衛小休。茶料弐百文遣ス。尚又神吉村上村ニ而中飯。夕方池上村郷宿江着仕候処、則井戸村重三郎先着致、尚又広河原村次郎左ヱ門庄屋名代ニ来ル。将又馬路村中川六左ヱ門、和田村太田弥左ヱ門、是又先入来。右拙者三人共仕舞、夫ゟ面会。種々挨拶。夕飯後、右中川、太田両人帰村被致、拙者始三人、尚又井戸村、広河原村止宿致し候事。

十月朔日。寒冷之上天気。早朝井戸村、広河原村両人役所江罷出候処、役所片付、早々帰村致候。然ル処、則由緒書相直し、拙者、辻氏両人持参罷出候処、則朔日定休日ニ而門を〆取次を以、拙者、辻、名札差出し、段々右由緒書而已之儀故、乍恐面会相頼候得共、取次何分休日故用向明日可参様被申立候ニ付、夫ゟ引取、辻氏持参之菓子箱持参ニ而取次役池上村麻田官次宅江参り、長々相待申、先入来人引取帰り候迄相待、夫ゟ右官次江面会挨拶。則右之由緒書披見ニ入、今日者休日之儀不案内ニ而罷出候へ共、役所ハ取敢無之、夫故当御宅へ罷出候故、是而已之次第故御預り被下候ハヽ大悦ニ存候間、此段申入候処、段々御尋ニ而、何分此度之義ハ旧幕府ゟ之儀ニ而貴家之由緒書取調ニハ不及候様被申、乍併是悲と御申入之儀ニ候ハヽ可然本県へ早々差出し可申様被申、尤貴家之由緒ハ追々御取調茂有之趣ニ付、如何様共可仕様被申候ニ付、両人示談之上、左様ニ御座候ハヽ此度ハ先差扣へ候間、後日御沙汰之砌早々差出し申候ニ付、其節万端宜敷相頼与申置、両人共郷郷宿へ帰宿致、則中飯、酒肴支度仕候間、則宿料酒肴代御入用相払、昼半時ゟ辻氏家来共八木嶋村与市方へ御越、拙者壱人馬路村江参り候事。

一拙者彼是八ツ時馬路村へ着。則人見七之助宅へ立寄り、小弥太世話ニ相成、金段種々相談仕候而市場屋太兵衛宿へ参り休足仕、夫ゟ小弥太宅江右金子之断ニ参り候。則市太ニ而小鯛三枚代札弐拾七匁之分持参進上仕、小弥太ニ面会。段々右金段延引ニ相成候段相断、且又正金返

弁之儀格別之違ニ付、此段及示談候処何分其邉茂有之候ニ付き、当月限り之儀ニ付、半分者是悲正金者札ニ而宜敷候得共、何分限月之儀故半方成と茂今日ニ返弁被下度次第ニ付、則正金三拾両金札六拾壱両都合金札百両之分小弥太江直ニ相渡、尤請取書貰置、夕方帰宿致候処、国元より家内、子供、家来伊之助宿着仕、皆々仕舞止宿之折柄、人見七之助、人見小弥太入来。則小弥太小豆煎多分ニ被下頂戴。夫ゟ右両人段々先地頭種々御咄し、則半納之義水口氏ゟ内願之義示談いたし候処、其儀御内願ニ相成候ハヽ、是悲早々御沙汰可被下与被相願、彼是四ツ半時ニ両人共御引取、拙者止宿之事。

二日。早々天気。早朝人見七之助入来。尚又金子弐拾両当月中ニ借用致度与頼談。尚拙者勘考之上御答可仕与申、右同人御引取。夫ゟ家内皆々妙見宮様へ参詣之支度、彼是五ツ半時出立。則金札壱朱拙者ゟ扣へ市太内お里、小石江弐百文家内ゟ心付遣し三軒家渡、小林村ニて小休。夫ゟ弁当持参無之中飯。無表坂ゟ参詣。夕方参詣。御山内米屋ニ而泊り、夜中ニ参詣。御膳料御礼拝仕止宿之事。

三日。早朝参詣仕御礼拝礼。夫ゟ宿料相払ひ裏坂江下向。所々ニ而休み、亀山河原町美濃やニ而中飯。尚又酒肴。夫々相払、土産物相求メ、宇津根之渡し彼是七ツ時馬路村市場屋江帰宿候処へ、国元同家庄五郎家内急死去ニ付、拙者家内へ飛脚ニ、則為吉、鶴之助池上村ゟ西田村江廻り、馬路市太江参り居、当惑書披見。夫ゟ拙者帰宅致ス。家内篤(気)人足無之故、明早朝帰宅之約定ニ而家来伊之助相残り止宿。則細川宮之辻ニ而夕飯。則夜四ツ半後帰宅仕候事。

四日。大雨降り。其日八ツ時お菊葬式之事。

五日。上々廻(ママ)情天気。早朝より拝葬いたし、種々常之相談之折柄、京都屯所西右内ゟ飛脚書状持参。佐市帰村。則多氏より之差図之義申来り、早々明日飛脚同道ニ而上京可致様申参り其手積り致候事。

六日。上々天気。早朝ゟ種々用向。今日上京ニ付彦七へ参り、おくら一件ニ付金札弐拾五両預り、尚又庄五郎方へ参り、右書面京都之始末相咄し、河恵公相談之上帰宅。

彼是昼半時上京出立。則野長公寄合之義相断、中江村西氏へ立与り、夫ゟ出立。彼是夜五ツ時後屯所中立売猪熊角着仕、支度之上皆々止宿之事。

七日。中天気。早朝ゟ先達而ゟ多氏将又外々之儀西氏ゟ承り、則右軍務役所之義ハ明日之手筈ニ有之。終日休足致候。則西氏桝源江旅宿之儀御礼旁々御越、将又夜分入湯止宿致候事。

八日。上々天気。早朝拙者多氏へ右役所へ罷出候次第相談ニ参ル。途中ニ而馬路中川石見面会。元領之義御咄し有之。早々多氏へ参り、則兄第両人共面会。尤今日軍務官江罷出候次第相談承り、早々帰宿仕候処、水口備前守入来。則久美浜伊尾野氏上京之次第ニ而御内願、且又御室本多氏ゟ頼之義金談、尚又若代氏借用金之儀、是又御相談有之。早々御引取被成候。然ル処彼是刻限ニ相成、皆々願面ニ調印形仕、中飯支度。拙者、鳥居名代西勢太、西山彦市郎、西右内、河原林民部代田中長次郎、尚又小畠勝三郎付添、且家来宇之助、佐市連連早々軍務官江皆々罷出、御門ニ而名札差出し、則銘々出ス。尤東側内玄関江罷出、名札差出し取次村山幸三郎取次を以、坊城中将様江出願之儀有之候ニ付罷出候間、御取次御拝顔願度義申入候処、申之奥御使者之間へ同人案内被下、其所ニ而暫時休足相待申居候処、多氏御越被下面会。種々御心添被下承知罷在候。然ル処取次名札之通り呼ニ参り、案内早々同道御拝面場ニ而幷ニ上段ニ而　坊(ママ)　御拝面被下、皆々平伏。夫ゟ拙者共丹州山国社司郷士之者歎願之次第願上、則願書差出候処、直ニ御取上御上覧之上御尋、仁和寺様御下坂之節下坂供奉仕候段申上、則右早々引取参与御役所へ御親兵願出可申様御内沙汰被為在候ニ付、早々上京。右役所へ願出、尚又御親兵会議所へ出願仕候処御掛り三宮取次面会。御親兵願立御聞済ニ相成、夫ゟ京都ニ而其仕居候段奉申上候処、尚評儀之上御沙汰ニ可及段被仰候ニ付、段々相願、尤内侍所ニ限る与申儀ハ有間鋪候与被仰、何分右之願相唯シ候御役之義一入ニ乍恐奉願上候与申、尚屯所之所書奉差上置皆々下り、則右御両郷御引去被成候。尚取次衆江挨拶(ママ)、皆々下り候事。

一拙者門前ニ而夕方ニ而、夫ゟ辻子へ用向有之ニ付、皆〻与相分連私用ニ参り候。尤其夜辻子ニ而止宿之事。

九日。上〻天気。早朝髪月代入湯仕、夫ゟ大坂銭要之一件種〻相談し候折柄、川筋五拾弐ケ参会。油小路井筒屋弥三郎宅ニ而相催ニ付、拙者呼ニ参り、夫ゟ罷出候処、則御運上所此度嵯峨ニ而御取上ケ之義、嵯峨福三郎、海老名両人之願ニ依而其趣御聞済之様子ニ而、尚又奥惣代ゟ差支之次第願上ケ候義、尚又是ゟ仕向之義相談有之、今一応嵯峨材木屋衆江右之段懸ケ合可申相談ニ而皆〻相分連申候事。

一油屋源八仲ケ間之儀先達而より有栖川宮様御舘入之義相談ニ面会。種〻示談いたし候事。

一大坂之一件ニ而辻子ゟ呼ニ参り、則夕方富山氏、喜市面談。種〻示談。尤富山氏下坂之相談之事。但し拙者辻子ニ而止宿致候事。

十日。中寒天気。早朝入湯。曳釣り、雪獣買求メ候処、与七屯所ゟ呼参り、尚又片岡氏入来。種〻御咄し有之。則明晩ニ辻子ニ而面会之約定。拙者与七屯所江同道。午之刻ニ屯所帰宿仕候処、栄吉入来。将又才吉入来。早〻引取申候。西氏八ツ時ゟ多氏へ出願之義内尋ニ御越被下候得共、則舎弟と掛ケ違留主中ニ而面会不致。則舎兄ニ相尋候得共、得与相訳り不申、尤一条之日ニ付客来有之候間、早〻帰宿。皆〻其夜止宿之事。

十一日。寒冷北山ニ雪ふり。早朝ゟ嵯峨小林氏へお与弥世話ニ成、御礼旁〻家来宇之助召連参り、尤中飯、酒肴頂戴。則おすがニ面談し、種〻相願、尚又およ弥面会。是亦得与申置七ツ時ゟ帰京。則夕方ニ帰宿。則飛脚幸助上京。彦七ゟ書面持参、請取。其夜返書相認メ、尚又嵯峨ゟ持帰り候仕立物、且又風呂鋪在所へ下し候手当致、止宿候事。

十二日。寒冷天気。早朝幸助参り、右之品〻返弁。然ル処弓削村之寸田佐伯之一条承り、驚入、将又周山下村三ツ井屋ゟ拾三軒計火失ニ相成、是又驚入候次第、然ル処辻子ゟかね入来。大坂之義種〻示談。且大宮之こうし売払ニ参り候而、尚早〻引取。中飯後早〻西氏星野氏へ御越被成、彼是夕方帰宿。拙者終日屯所居申候処、其夜皆

〻止宿之事。

一御室本多帯刀駕ニ而入来。則過日与り相願候金子之義尚又御頼ニ付、御恵之菓子壱箱被下、則御礼申上候。急〻調達之儀□□(虫クイ)早〻御引取之事。

一橘春斎入来。則同刻ニ而種〻之御咄し、尚又儀(義)政官之御咄し承り、種〻御噺、早〻御引取之事。

十三日。寒冷厳敷、早朝拙者、則室町木曽利宿ニ而水口氏面会。則伊王野氏上京ニ付、半納、且又種〻示談いたし、夫〻因州藩附之山国隊番所八町殿町江参り、則高室清太郎、小弥太、浜太郎面会。今一両人番所へ差向之人数之義拙(カ)者帰村之上与申置相別連、夫〻下モへ行、伊勢長へ寄、面会。彼是七ツ時後ニ辻子へ立寄、夕方帰宿致候。多氏入来。拙者他出、西右内、西山面会。種〻御咄し之御座候事。

一軍務官〻明十四日巳之刻〻可被罷出様御呼□(虫クイ)ニ参り、則召状左之通り御座候。

御用之儀候間

明十四日巳(カ)刻出頭

可有之候也

十月十三日　　軍務官

丹州山国社司

河原林大和守江

一河原林彦助、昼八ツ時入来。尚又夜□(虫クイ)ツ時ニ平五〻入来。則山林買請度人有之趣示談ニ参り呉候。且又外ニ草木文左衛門家之儀示談有之。其夜右彦助屯所ニ而止宿之事。

十四日。寒冷厳敷、早朝明六ツ時罷出面会仕、則巳之刻ニ罷出御答之次第、段〻示段承り、将又御舎兄(カ)面会。是又相頼、早〻帰宿。又□(虫クイ)髪月代入湯等いたし候処へ、小畠平八郎入来。種〻出張之示談。且又金談相願申候処、彼是巳之刻ニ相成候故、中飯支度仕候。

一午之刻、拙者、西山、西氏、西勢太都合四人家来佐市皆〻軍務官江罷出候。則御門ニ而番所へ名札差出し、御内玄関江皆〻罷出、則御用之儀有之付□□(虫クイ)御伺申候間、

御取次御披露□(虫クイ)名札差出し候。早速奥江御取次被下、早々儀士所(ママ)へ参り、則暫時休足致候処、多氏御□(虫クイ)皆々奥□(虫クイ)り候様被仰候ニ付、皆々参り候処、早々御拝面所ニ而五條少納言御席、尤坊城様伏見へ御出役ニ付御壱人段々御利解被仰下、則過日歎願次第一統江評儀致候処、何分徴兵且御親兵皆々未タ規足□□(虫クイ)不申候、御願(カ)之通ハ至極尤ニ者一統被存候得共、先夫迄之処へ暫時之間相待居可申様被仰、何連急度御役之義ハ御沙汰(カ)有之間、当時之処暫時相待可申様、将又歎願之義有之候ハヽ、追而願可申様、夫ゟ段々押而相願候而歎願書之儀相伺候ハヽ願書ハ御留置ニ相成候間、左様相心得可申候与被仰付、不得止事、早々皆々相下り申候処、早々帰宿仕候折柄

一早々多氏入来。則今日之次第、尚又押而稽古連兵可願様心添ニ御越被下、段々示談いたし、彼是夕方迄相談し、多氏御引取。西山氏御帰宿ニ相成候処へ、平八郎入来。尚又今日之次第相咄し、其夜皆々屯所ニ止宿之事。

一夜八ツ後刻国方与り飛脚両人参り、尤夜分之□(虫クイ)故早速承り候処、大野村出火。則今十四日八ツ時前より中之町文三郎根□ら焼部家与り出火候而早々市太郎宅へ移り、尤留主中故丸焼、尚又早々多四郎附、是又同断。夫ゟ仙之助宅円徳寺と一所ニ火之手上り、則仙之助ハ少々米、且外ニ少々出ス。残り円徳寺仏檀廻り丈け出し常之品々丸焼。夫ゟ数之助、善次郎両家ハ大体出し候得とも、則善次郎□(虫クイ)ハ米ハ皆々焼ニ而年貢米焼失。将又彦七、拙宅、久五郎三辺計り火付申、種々片付ケ漸くノガレ半焼同様之次□(虫クイ)御座候由申来り、皆々承り驚入候折柄、□(虫クイ)京高瀬五条下ル処、尚又出火。則野口与申材木屋丸焼相成、尤夜八ツ半時ゟ明六ツ時迄之火事ニ御座候ニ付、皆々彼是心配いたし、則刻限ニ火納り申事。

十四日。並天気。甚鋪早朝より拙者帰村之積りいたし居候処、木場ゟ西氏呼ニ参る。清三郎入来。昨日上京之由有之。帰宅之義相断申度義相談被参、尤病気義故其由を申入置候様申相分、且又西氏木場へ参り候処、多氏入来ニ而種々示談可有之趣、尤西氏ゟ示談御座候。然ル処下辺ゟ中林源助帰村掛けニ立寄。西氏帰宿。則宇之助召連帰村之支度、彼是四ツ半時ニ(ママ)ニ相成出立事。

一杉坂橋政中飯之代り御酒壱献。則拙者、源助、芳兵衛、卯吉、宇之助休足致居、然ル処、仙蔵帰ル。夫〻同道ニて皆〻帰村。鳴之堂地蔵ニて休足。則弁当皆〻開き、彼是約夜半時ニ相成、夫〻帰村。則庄屋長兵衛宅へ寄、夫〻彦七江寄、右両家共見舞申帰宅致候事。

十六日。寒気上〻天気。早朝〻則火事見舞ニ廻り、彼是与午之刻ニ相成候処、大風邪ニ而早〻帰宅。夫〻引籠り彼是与五七日相掛り申候処、種〻村方寄合有之候得共、名代ニ悴を遣し候事。

但し、十六日〻廿四日迄風邪ニ而引籠罷居候而全快之事。

十一月六日。上〻天気。早朝拙者共始水口氏山国七ケ村惣代用弁ニ五ケ村歎願之儀ニ付、久美浜県江出張。則比賀江村庄屋佐五郎江立寄、免状印形失念無之様尋旁〻相尋候処、則辻村庄屋江差遣し候様被申、夫〻辻村庄屋佐兵衛江立寄、則荷物掛両之支度彼是致し候処へ、中江村小畠平八郎御越立寄、夫〻鳥居村久保宗次郎方へ立寄、猶又下村水口氏江立寄、両掛ケ登路台借用、尤水口氏去ル四日御出立ニ而檜山宿ニ而御待被下候約定ニ而、則拙者、小畠平八郎、米田佐兵衛、久保宗次郎、家来藤次郎、右五人同道ニ而、尤横田新助先江牧山村〻先へ御越ニ御座候跡皆〻同道ニ而罷越候事。

一宇津中地村忠右ヱ門店中飯。人野坂志津見殿田村丸屋止宿。則横田新助先着。彼是夕方皆〻着。猶又野上長兵衛中之町宇兵衛召連無程宿着。則田貫村上野半左ヱ門同宿。壱献相催皆〻止宿致ス事。

但し、其夜雪降り、且又雨降りニ而皆〻困り入、尤明日檜山迄両掛ケ持人足相頼申、則賃金壱歩之事。

七日。中天気ニ而早朝中之町宇兵衛、早朝馬路村へ帰り候。皆〻同道ニ而小茂野越ニ而御座候。

一檜山宿柏屋ニ而中飯支度仕候様申候処、水口氏、家来槌之助、且又京都府役人、松田正人御内、日下部市之介右三人先着。夫〻皆〻中飯支度仕、夫〻出立。彼是八ツ半時罷出候事。

一大久保宿宮田屋泊りニ御座候事。

八日。中天気。早朝皆々出立。拙者宇ばら(荒原)宿ゟ篤(駕)ニノリ千束宿塔之市宿迄ノリ、夫ゟ福知山迄歩行。則一福知山ニ而中飯。尤皆々支度仕、荒河宿之先ニ而相別連一之宮宿ニ而泊り、皆々止宿之事。

九日。上々天気。早朝皆々出立ニ而小野原小休。久畑小谷村宿小休、中飯。則延条寺(円城寺)山越之儀者段々聞承り候処、宿屋無之趣ニ而一統因り入、皆々相談之上出石江廻り候相談ニ取極メ申候事。

一小谷村中飯致、矢根村、寺坂村、則是ゟ峠坂有之、出石御城下宜敷所御座候。尤嵐少々降り申候。則出石宿岸田屋上々宿皆々泊り、其夜大雨降り申候ニ付、皆々御酒肴種々相催し皆々酔止宿事。

十日。中天気ニ相成、早朝皆々相談致候処、則久美浜江三里、尚又豊岡江三里、尤三里之廻りニ御座候得共、尤峠有之候間相談之上、豊岡城下町へ見物等ニ参り、尤豊岡迄ハ川舟有之。則右船ニ皆々乗申相談ニ相成、則船壱叟買切申候。尤酒肴催し、彼是五ツ半時ゟ出船之事。

一豊岡町江午之刻入船致し、皆々柳籠買求、則松屋忠兵衛と申処ニ而中飯。酒肴催シ申候。然ル処存外ニ上々町柄ニ而皆々恐入候。夫ゟ篤(駕)ニ而壱挺日下部氏先江御越、久美浜宿屋敷周従拙者共下宮村継立、其宿村ゟ尚又篤(駕)ニ乗大峠を越、夕方ニ相成、久美浜町江皆々着致ス。尤宿者越前屋与申宿、尤宜敷宿ニ而則裏ニハナレ座敷有之。皆々泊り、其夜尚又酒肴相催し止宿致候事。

十一日。中天気。彼是四ツ時ニ相成、日下部氏、伊王野氏へ御越、則拙者共願書相認、尚又官位届書相認、彼是七ツ半時ニ皆々調印。水口氏役所江御持参。夕方之義故願書、引当書幷ニ届書預ケ置御帰宿。尚又日下部氏者早々御帰宿。尤其夜酒肴相催し、皆々止宿之事。

但し、昼夜時々雨降り嵐致候事。

十二日。上々天気。早朝日下部氏、野上氏相談之上喜(ママ)之崎湯嶋江御越。尤家来藤次郎召連、早朝より御越。水口氏早朝役所江御内談願旁々御越被下候。早々御帰宿ニ成、夫ゟ相談之上船行之相談極メ申候事。

一昼飯後早々船壱叟借り而、則湊村与申所江跡皆々参り、尤右村迄壱里半計浜ニ御座候。則酒無ニ而夕方ニ帰り、

尤右之所実ニ面白処ニ而御座候。其夜雨降り相成、且日下部氏野上氏家来藤次郎湯嶋ニ止宿。残り皆々止宿之事。

十三日。雨降り。早朝ゟ拙者認物色々致、彼是四ツ時ニ役所江、則水口氏伺旁々御越被下候処、尚又昼飯後罷出候様被仰候ニ付、依而帰宿。尚又相認七ツ時ニ水口氏へ御越被下候処、則伊王野氏面会。種々御内願被下候処、則弐千両丈願出、尚又弐千両者商法会所江願書差出し可申様被仰、且又免状之義茂可願出様被仰候而、水口夕方ニ御帰宿。尚又伊王野氏より日下部氏江夕方ニ可参様御使参り候得共、則三人之衆中湯嶋ゟ御帰り無之、其段相断申上置候処、其夜ハ大風雨ニ而皆々困り入候而止宿事。

十四日。大風雨ニ而早朝ゟ困り居候。則今日御役所江村々願書持参ニ而罷出候様被仰候ニ付、相認拙者計致し、彼是昼飯後早々役所江小畠氏、久保氏、横田氏、米田右四人罷出申候処、日下部氏、野上氏、家来右三人昼後早々帰宿。且又御役所ニ而村々庄屋衆中御普請歎願之義段々利解ニ而六ツケ敷、免状之願書、明日村々調印之上役所へ差出し可申様被仰付、右村々帰宿。夫ゟ御酒壱献催し、日下部氏夕方ゟ伊王野氏へ御越、夜五ツ時ニ御帰宿。尚又御酒催皆々止宿致候事。

十五日。早朝天気。四ツ時ゟ雨降りニ成、則歎願書持参ニ而、水口氏則御役所江御越被下候処、松本氏幾野江御出立ニ而彼是御支度ニ付早々御帰宿。夫ゟ庄屋衆中四ツ半時ゟ御役所へ御上納半方分冬納半方来ル六月皆納之歎願書持参。尚又七ケ村拝借願書持参ニ而御帰宿。尚明早朝ニ罷出可申。則村々川普請之儀段々御利解ニ而困り居候而帰宿。尤酒肴支度致候事。

十六日。早朝天気。則村々庄屋中御役所江罷出、右普請料相願、皆々八ツ時ニ帰宿。夫ゟ久保宗次郎、米田佐兵衛、家来藤次郎召連昼飯後ゟ早々右三人湯嶋江見物ニ御越、尤買物旁々御越、然ル処夕方ゟ風雪ニ相成候。残り之者今日者御役所休日ニ御座候故、皆々止宿いたし候事。

十七日。早朝大雪ニ而則壱尺余り降り皆々困り入、尤皆々当惑至極ニ御座候。則水口氏四ツ時伊王野氏へ御越被

下候処、当[虫ヶ]杉浦越前本領元々ニ相成候由、且又過日願出候拝借金之儀、急々本証文相認役所へ持参可致様被仰候ニ付、右種々承り、水口氏昼前ニ帰宿ニ而早々本証文相認、役所へ持参仕、則十一月納ニ可致様被仰、其段取直し可申様、是又認直し申候而差出し申候。尚又直ク様被申、又候持帰候処、彼是夕方ニ御座候。

一暮六ツ時ニ湯嶋行之衆中三人共帰宿。将又雪降り追々大雪ニ相成、皆々心痛。尤買物之品買求メ帰り皆々夕飯ニ酒肴催シ、其夜皆々止宿之事。

一其夜本証文相認直し、且又川筋御運上所外ニ取直シ新ニ御取立之儀歎願、尚又筏下し方之訳柄帳相認申候処、彼是夜七ツ時ニ相成、夫ゟ拙者止宿致ス。

十八日。早朝大雪降り。朝飯後早々庄屋衆中本証文持参、役所江罷出候。将又水口氏右川筋之歎願、尚又訳柄持参ニ而伊王野氏へ御越、荒増杉浦本領安堵之義承り帰宿。尤庄屋衆中其次第御役所ニ而被仰、尤半納之義ハ御料同様ニ御聞済ニ相成候段被仰儀承知仕、尚又五里持外ニ別掛り物段々相願候処、御利解彼是拝借之手形都合三千両預り帰り、稲葉仁兵衛方へ引替ニ参り候処、明四ツ時ニ引替可申様被申帰宿相待申処江、八ツ半時ニ金札相渡し可申様被申来り候間、早々請取ニ参り、彼是夕方迄掛り請取帰宿致、尚帰国之支度仕候事。

一日下部、水口氏、伊王野氏御宅江御イトマを挨拶ニ参り、両人とも夕方帰宿之事。

但し益々大雪降りニ而皆々心痛致居候。

十九日。早朝追々大雪降り弥々都合四尺計積り候処、皆々帰国之積りニ付銘々支度仕候処、彼是五ツ半時ニ出立。尤人足六ケ敷、則大雪ニ而三人之処六人罷出、弥々四ツ時皆々出立。益々雪降り、佐野村江二里、右村ゟ弐ケ村迄弐里、則桝留村テ中飯。尤五ケ村と弐ケと合村也。尤右桝留ニ而雪四尺余有之。拙者屋根之雪づりニ而困り入り、弐ケ村ゟ峯山城下迄壱里、則夕方右大雪ニ而皆々大困り入、彼是夜五ツ半時ニ峯山田丸屋之宿江着。則割木買裏ニ而火焼皆々あたり、則四ツ半時ニ皆々止宿之事。

廿日。早朝天気。田丸屋皆々出立。大野迄壱里半大野ゟ

弓木(ナシ)迄弐里。即此間峠有。尤大内峠とゆう坂有。弓木ゟ岩滝村迄半り岩滝浜ノ弥蔵中飯支度。尤酒肴相催し、夫ゟ宮津江渡船。則文珠江参詣。尤知恵之餅買求、尚又船ニ而宮津城下筆屋とゆう河内や七兵衛方ニ泊り、則酒肴催し、則夕方皆々着ニ而五ツ半時皆々止宿之事。

廿一日。早朝寒気厳敷出立。則筆屋ゟ喜田(多)村迄一里、右喜多村ゟ仏勝寺迄弐里、此間ニ婦こう峠とゆう大坂有。尤此所山雪五尺計降り申候。今日ニ而ハ四尺罷在候。右仏勝寺ゟ丹後本伊勢ノ内宮江壱里、則内宮江皆々参詣。同所万屋中飯。右同所ゟ外宮江廿五丁、尚又外宮江参詣。同所ゟ河守宿迄拾弐丁、則河守宿吉野屋為助ニ泊り、尤酒肴催夕方着。皆々止宿之事。

廿二日。早朝雪少々降り。河守ゟ福知山宿江川船ニ而上ル。則同所ゟ福知山迄三里半、福知シヤケ鼻ニ而皆々中飯。酒肴支度、福知ゟ土師(ハゼ)宿迄壱里、同所両国屋ニ而泊り、右甚兵衛ニ皆々止宿事。

廿三日。早朝七ツ半時出立。少々雨天。則朝飯後払之節金札五両、野上氏江相渡ス。夫ゟ土師ゟ小佐田江一り半小佐田ゟ兎原迄三り半、同所ゟ大久保迄壱り半、同所中飯。尤極上之天気ニ相成、大久保ゟ須知宿江桧山へ二り半ト五十丁、則須知大黒屋茂兵衛泊り、問屋役人参り、人足之義ニ付彼是申立人足買揚之義申、無拠買揚之帳面ニ相成申候而、夫々荷物口々訳ケ而拵いたし、尤酒肴相催し、皆々止宿致事。

廿四日。早朝中天気。則国元へ差遣し候書面相認、尤人足之儀ハ買イ上ケニ而都合三人買、水戸峠之下タニ而京都吉田数馬先生ニ出合申、鳥度挨拶いたし、夫ゟ日下部氏赤熊村日下部与申郷士宅へ、則家来槌之助召連御廻りニ付、妙見道ニ而相別連申候。尤今夜旅(ヤこ)亀山美の喜宿与申約定ニ分連候処、追々雨天ニ相成、鳥羽宿小休。皆々困り入候。

一八木角屋ニ而皆々中飯。尤酒肴一寸相催し、彼是八ツ時後ニ相成候故、早々水口氏、拙者、両人八木ゟ川関村ゟ亀山河原町ニ而日下部氏槌之介出合、夫ゟ美濃喜ニ而旅宿致ス。尤酒肴相催シ、皆々髪月代、尤人足買上ケニ而篤(麗)壱挺水口氏乗手当、其夜皆々止宿致ス事。

一右八木ニ而野上氏、小畠氏、横田、米田、久保氏家来藤次、右之衆中馬路村江御越、久美浜歎願之次第相届ケ早々帰村之事。

但し其日終日大雨降りニ御座候事。

廿五日。上々天気。早朝日下部氏者右日下部之旅宿へ尋ニ御越、一足早ク出立。水口氏篤(親)ニ而出立。拙者、槌之助、右日下部氏御立寄之柏源江相尋申候処、則御酒肴御催シ暫時相待、夫ゟ同道ニ而峠番所名札差出し、樫原宿ニ而中飯。御酒相添皆々上京致候事。

一桂材木町ニ而馬路小弥太出合、則杉浦本領之義相尋申候処、得と相分り不申、且又外金談相断、西院村迄同道、四条通り西院村ニ而相別申候事。

一下立売堀川東江入南側松田氏立寄。荷物壱荷相預ケ木場江寄り、水口氏、若代江立寄。室町木曽利旅宿酒肴相催、則三人止宿致候事。

廿六日。上天気。五ツ時、則山国隊之衆中廿五日皆々帰京ニ相成候ニ付、夫故早々水口氏御越、拙者壱人留主番致、其日夕方ニ水口氏家来帰宿ニ而其夜ゟ芝居行之催有之。尤山国隊組御越ニ而家来槌之助、其夜ゟ芝居江行、銘々両人之義止宿致候事。

廿七日。上々天気。早朝水口氏拙者両人、松田正人殿ゟ御頼之金談治定ニ若代氏江参り、夫ゟ同道、榎並氏江右三人参り候処、折節留主中ニ而暫時相待、然ル処、松田、久保右御両人御越、銘々挨拶致し、彼是いたし候処へ、榎並氏御帰宅ニ而挨拶致候事。

一右松田正人御頼之金談、段々示談致、来月廿日限りニ而、千両丈ケ取替融通致、則当座之証文預り、右金札相渡日限之義約定致、早々帰り候事。

一若代氏、水口氏、子供衆ハ芝居江御越、拙者共ハ用向有之。屯所江立寄中飯。種々相咄し承り、夕方ゟ拙者辻子江下り、其夜辻子ニ而止宿致、亀次郎義段々承り候事。

廿八日。上天気。種々用向ニ付、八ツ半時ニ相成、夫ゟ屯所江立寄、夫ゟ木曽利江行、其夜水口氏帰宿無御座、則水□(虫ケイ)庄五郎止宿。外ニ水口使卯之助、右三人共止宿之事。

廿九日。天気。早朝水口氏家来帰宿。朝飯皆々致、拙者

髪月代致、水口氏国元江家来帰し、夫ゟ種々相談致し候処、彼是昼ニ相成、中飯酒共催し候処へ、寺谷氏ゟ使参り、面会致、明日中飯後新烏丸近縁ニ而水口双方面会相談、万端取極メ申候約定ニ而御引取、銘々勝手ニ而私用ニ罷出候事。

一水口氏新屋敷江御越、拙者屯所江参り種々示談致、大掌(書)会之一件、城氏、西氏江相談致、其夜者屯所ニ而拙者止宿之事。

卅日。天気。早朝ゟ杉浦本領之義ニ付長州河内山氏へ参り候積りニ而、拙者西氏同道ニ而下り候処、則河内山氏留主中ニ而四条藤屋ニ而中飯。則西氏扣也、夫ゟ銘々私用、将又新烏丸近縁江参り、寺谷氏、水口氏、拙者面談致、万端取極メ、明日屯所江山林証文之下書送り候様約束致、七ツ半時ゟ屯所へ帰り、其夜西氏木場江多氏面談ニ行。拙者屯所ニ而止宿之事。

十二月朔日。上々天気。早朝ゟ種々示談。則多氏江取次内願之一条、拙者持参可参相談。将又西氏長州河内山氏江罷出候示談之処、拙者入湯。大工喜助入来。西氏と段々相咄し、則多氏ゟ西氏江使参り、今午之刻後新地辺江同伴之約定ニ参り、拙者城氏先生江神祇之義多氏へ相頼申、皆々中飯支度、早々西氏右之口へ出張之事。

一八ツ時城先生多氏へ御越之事。

但し内願之義相頼申候。

一七ツ時野尻彦七国元ゟ上京。則嵯峨大八木幾右ヱ門銀談之義ニ付等侍(ママ)院中路氏へ立寄、種々御相談有之勝手ニ付平五江泊りニ御越有之候事。

二日。上々天気。早朝ゟ支度。則使人足帰村ニ付其者へ荷物少々為持、杉坂はし政中飯。所々相休、彼是夕方中江村西右内へ立寄、夫ゟ帰宅致候事。

三日。上々天気。終在(ママ)宅ニ而同家廻り休日致ス事。

四日。上々天気。早朝ゟ種々用向有之。彼是夕方中江村西右内宅江五ケ参会ニ出席候折柄、拙家江庄五郎入来。則娘よ弥縁談之義示談致、暮々ニ出席致ス。其夜席□(典ヵ)ニ而止宿致事。

五日、六日。右両日参会勘定、則都合三日之間、勘定参会相勤、則六日彼是夜八ツ半時ニ相開帰宅致候事。

七日。天気尤中。尚又当春来之御親兵出張、屯所諸入用之勘定ニ取掛り候処、拙者用向在之候ニ付、彼是七ツ半時ゟ同村西右内宅江出席。則河庄両人ニ而其夜空敷致、両人共止宿之事。

八日。早朝少々雪降り中天気。然処其日勘定相掛り始候処、昼後則鳥居氏出席。夫ゟ皆々相談旁銘々扣之分附出し、勘定仕候処、何分大勘定之儀故仲々一日ニ(マヽ)ニ而者難出来。其夜者鳥居始メ河庄、拙者、野上長兵衛其夜止宿致候事。

九日。天気。早朝ゟ右同断。則野尻氏呼ニ遣し、昼早々ニ同人入来。夫ゟ勘定清書ニ相成候処、少々割方残り候ニ付、尚明日可被出約定ニ而荒々之相談致候。則右立会之儀ハ鳥居、拙者、河庄、野上、野尻、西九兵衛、同右内余り多分之割方ニ付相談相調ひ不申。大亭半方分ハ当年割請、半方之分ハ銘々扣へ置可申様相談ニ相成、若又他借出来候ハヽ借り請、尤皆々借用ニ相成候ハヽ一統連印ニ而借用可致約定、尚手残り之分拙者罷出、明日割付可申約定ニ而、其夜彼是八ツ時皆々引取申候事。

十日。中天気。早朝ゟ拙者宅用向有之。段々延刻ニ相成、夕方同家江出席。道ニ而河庄ニ出合、尚又西江立帰り、夫ゟ割方致候処、壱人分弐貫三百弐拾七匁余ニ相掛り申候而清勘定致候処、西九兵衛、小畠平八郎入来。何分当冬ハ半方之割より出銀難出来趣候間、此段相談之上半銀者是悲出銀ニ相成約定、跡者銘々扣之者相扣へ不申、且又皆借用ニ相成り候共半銀ハ割出しニ相成事。其夜河庄、拙者、彼是夜八ツ半時帰宅致事。

十一日。上々天気。免割ニ庄屋方へ罷出申候事。

十二日。上々天気。早朝河原林恵次郎民部方ゟよねの結納ニ入来。則御酒壱献差出し昼前ニ御引取、夫ゟ庄屋へ免割ニ罷出、夜八ツ半時ニ帰宅之事。

十三日。中天気。少々雨降りニ相成申、其日小塩村文左ヱ門、当町勘三郎、小倉町為蔵、野上利兵衛入来。尚又彦七入来。種々示談之事。

明治二年巳正月吉日

正月十日。山国社司中当年井戸大野邑行事ニ相当り、野上氏参会。則惣代、水口氏、拙者外ニ壱人御所様始諸家様年礼ニ上京之約定ニテ皆々退出之事。

十三日。上天気。八ツ時ヨリ大雪降リ、則水口氏家来召連、十二日上京。尤拙者、河恵、家来為吉召連、右三人上京。則千束ニテ張厳敷候ニ付、氷室道ヨリ室町木曽利宿江差、尤夜五ツ時ニ相成、水口氏昼前ニ御越ニ而、尚又用向在之、五ツ半時ニ帰宿。其夜歳酒罷出一統頂戴。皆々止宿致ス事。

十四日。早朝ヨリ大雪降リ皆々困リ入、尤終日大雪降、彼是四ツ半時ニ相成、則名札下ケ札相認、河恵、若代氏江御神札認直シ頼ミ、外ニ黒大豆七升買求御越被下、将又神祇官江御神札献上之次第尋旁々河恵上立売多氏江御越被下、拙者、水口家来召連、九條殿江年礼ニ参殿。

則献上之品

二重クリ台ノセ
御神札　下ケ札　丹州山国五社明神社司惣代
献上　水口備前守
河原林大和守

二重クリ扇子台ノセ
五本入扇子箱　献上　右同断
ヘギ二枚
金壱朱包　御扇子料　山国社司中
ヘギノセ
金壱朱包　御扇子料　山国社司中
右者玄関ニテ取次江名札共ニ出ス。
金壱朱包　御扇子料　山国社司中
右者年始之祝モチ頂戴其膳ニノセ出ス。
外ニ
三本入扇子箱平木ニノセ河原屋敷塩小路江年礼名札共出ス。差置ニテ帰ル。

則八ツ半時ニ帰宿。中飯支度。夫ヨリ多氏江神祇官献上之儀相頼示談旁々参上。

御年玉　黒大豆壱升紙袋ニ入出ス
但シカレ五枚進上　大和守

彼是夜四ツ時ニ帰宿。夕飯支度仕、皆々止宿。尤御酒一献相催シ申候事。

十五日。少々雪降。中天気。水口氏巳ノ刻因州公御礼ニ罷出候。則四ツ時ニ拙者若代氏へ年礼。則扇子壱袋外ニ

松賀礼五枚進上。尤水口氏藤野氏右両人因州江年礼ニ出掛ケ、右両人罷出候処、夫ゟ御酒頂戴無程両人御帰り、皆〻終日御酒彼是暮六ツ時迄右刻限ニ水口氏拙者両人木曽利帰宿。河恵公小畠氏へ年礼ニ参上。尚又皆〻御酒相催し、其夜皆〻止宿致候事。

十六日。中天気。雪降。少〻則年礼ニ罷出候。則水口氏、拙者両人家来則万吉、為吉召連彼是五ツ半時ヨリ葉室殿江罷出、夫ゟ二條殿御礼、夫ゟ八條殿町村田氏木屋町二条下ル藤木氏罷出、八ツ時帰宿。夫ゟ水口、拙者両人若代氏江立寄、夫ゟ新屋敷山国隊江同伴。七ツ時ニ参上。御酒皆〻相催、種〻相談致、彼是夜五ツ半時木曽利江帰宿。猶又酒相催し皆〻止宿之事。

葉室殿御礼之訳

山国神社　下ケ札
五社大明神　山国社司　丹州山国五神社
社司総代
右二重クリ台ニノセ出ス　水口備前守
外ニ黒大豆壱升　河原林大和守
右台ハナシ文章ニノセル

又雑掌御役所江黒大豆壱升
右台ハジツコン致ス事

十七日。早朝ヨリ上〻天気。皆〻髪月代年玉之支度早中飯支度ニテ出立。中立売屯所江立寄、夫ゟ御室本多氏江惣代歳礼

扇子壱袋　名札
黒大豆壱升　丹州山国五社明神社司惣代
水口備前守
河原林大和守

右他行ニテ、夫ゟ嵯峨江出張。彼是八ツ半時着。内玄関ニテ麻上下附御歳玉差出シ取次、小林喜間太奥江使者之間へ通ル。則役掛リ年玉差出ス。右諸大夫衆出達方右夫〻挨拶有之暫時

(貼紙)
「二條殿年礼之訳

山国神社
五社大明神　山国社司

右御札台ニノセ、但シ立足也。下ケ札前同断、則内玄関ヨリ上リ表ェ出、取次ェ出ス。尤取次進藤主殿取次也。

同家村田氏、藤木氏年礼之訳

黒大豆壱升宛　ミノ紙袋ニ入

御歳玉

文章ニ入名札前同断相添る也」

相待候処、中番被出御料理被下候而、尤家来共ニ同様被下、則歳玉左之通

御歳玉之品五本入桐ノ箱二重クリ台ニノセ出ス。

但し下ケ札

献上　山国　神宮寺　社司中

名札

丹州山国五社明神社司代

水口備前守

河原林大和守

右操台ノ上ヱニ葉タバコ拾抱ノセ、其上ヱニ青銅三百文包、猶又ノセル台ニ右之下ケ札ハル。但シ青銅之包左之通

青銅三百文

右二品、尤台二ツ大覚寺宮様ヱ献上之事。

猶又御殿役掛リ之衆中ヱ歳玉都合拾三人、則壱人ニ銭三百文宛封シル、尤平喜ニノセル、左之通

御扇子料　山国　神宮寺　社司中

但シ壱ツ鳥目三百文

拾三人分出ス

右奥使者ノ間ニテ一同ニヘギニノセ出ス。夫ヨリ御料理頂戴、暫時休足。右役人挨拶退出致ス。彼是七ツ半時ニ相成候。水口氏帰京。拙者家来召連、小林家ヱ年礼ニ寄其夜年酒。翌朝帰京。新屋敷ヱ寄、中立売屯所ヱ帰ル。則昼後ニ而御室本多氏入来之事。

但シ存外之大雪降、三四寸ツモル事。

十八日。夜ヨリ大雪降ニテ三四寸計ツモリ、彼是五ツ時ニ下駄傘借用ニテ京都ヱ帰ル。則新屋敷ヱ立寄、山国隊水口氏、藤野氏、面会。三本木ニテ集会之催シ、席差支有之候ニ附、延日相成候次第、夫ヨリ水口忠助、小弥夫、浜太郎面談。早々中立売屯所ヱ帰宿。則御室本多氏入来。年始之挨拶致シ、其日ハ雨天ニテ終日休足。其夜

皆〻止宿致候事。但シ河恵、河清入来有之候事。

十九日。上〻天気。早朝諸家様ヱ年礼之支度。則小豆買求其挑(誂)致ス。猶又葉室殿ヱ御茅輪下タ調進役河原林小源太年礼、且又山科家ヱ歳礼ニ罷出、尤本多氏御引取、夫ヨリ西氏拙者同伴致候テ八ツ前ニ屯所ヱ帰宿致ス。

歳玉モノ左之通

葉室殿年始

上〻小豆壱升　美濃紙袋ニ入

御茅輪下調進　河原林小源太

御歳玉

右壱袋献上。但シ台ハ雑掌トシツコン致ス事

御歳玉　右同断

御役所

右一袋役所ヱ台ナシニテ年玉進上之事

山科出雲守年玉之訳ケ

上〻小豆壱升　前同断

御歳玉　名前同断

外ニ松賀礼五枚別段進上之事

右都合小豆三升入用之事、七ツ時ヨリ上河内山半吾殿ヱ年礼ニ西氏、拙者、両人同道ニテ参上。年玉之儀ハ左之通リ

上〻黒大豆弐升

美濃紙袋ニ入

御歳玉　河原林小源太

西　右　内

右之通持参ニテ夕方ニ両人共帰宿、其夜両人屯所止宿之事。

十九日。上〻天気。早朝ゟ下辺江諸道具買物ニ西氏同道ニテ参り、則尾張方江立寄、薮之下ヱ買物色〻買求、夫ゟ寺町ニテ買物セイ願寺ニテ四季中飯。則拙者、西、勢、与七、才吉、右五人彼是八ツ時ニ夫ゟ寺町ニテ丹州ヨリ急状。則久美浜県知事廻村有之付、明廿一日八ツ時迄ニ帰村可致様被申越候故、宇之助跡テ尋ニ参り、折節寺町ニテ出合、書状拝見仕、夫ゟ早〻屯所へ帰り河内山氏へ年酒ニ可参約定仕置候ニ付、暮早〻拙者西氏勢太罷出、多人数年酒頂戴、彼是四ツ半時ニ皆〻屯所江帰宿。

則寺之内平五へ立寄、河恵殿面会。明日早朝ニ帰村之約定。尤水口氏相尋同道帰国可仕約定ニ而屯所ニテ止宿致候事。

廿日。早朝ゟ雨降り、早朝新屋敷江佐市、水口氏尋ニ遣し候処、今早朝水口氏駕ニ而帰村之由承り帰り、尚又辻子ゟおかね屯所へ参り、彼是不足ニ而申参り、将又木場江河清三郎尋遣し文章風呂敷若代氏へ才吉を以返却ニ遣し、尤水口氏御帰村カ如何候哉尋ニ遣し候処、新屋敷江御越、今朝御帰国之趣申承り、是又帰り候。然ル処西氏ハ多氏へ帰村之次第申置ニ被参、其跡江河清立寄、桝源へ参り支度可致様申、早〻引取申候。彼是四ツ半時ニ西氏帰宿。夫ゟ支度仕、大雨降ニ而困り入、杉坂中飯。鳴之堂ニ而暮、則灯燈借用ニ而西氏江立寄、尚又才吉送り呉、五ツ時帰宅仕、夫ゟ才吉早〻帰村。拙者共者夕飯支度いたし候事。

明治元年九月廿九日改

金銭札出入之覚

一〃入正金八拾七両壱分壱朱　改有
一〃入金札八拾六両弐歩壱朱　改有
一〃入銭三貫百四拾四文　改有
一〃入銀札拾七匁三分　改有
廿九日
一㊇銭弐百文　囲　〈八ケ〉　宇津栃本五兵衛休足茶料、但辻氏共扣へ
十月朔日
一㊇金札弐歩弐朱ト囲〈八ケ〉　八ケ名主用□(虫クイ)池上村郷「(虫クイ)」泊り酒肴「(虫クイ)」扣へ

釣り銀札弐匁

一金札六拾壱両　〈私〉　戻り入り
一〃金三拾両〈私〉　馬路村人見小弥太借用金之内返弁、但し都合金百両也
一正金三拾両〈私〉　右同人右同断、但し都合金百両元入返済本人へ渡ス
二日
一金札壱朱〈私〉　馬路市場屋内下女江家内はつより遣ス分此表ゟ相渡ス
一〃銭百文〈私〉　三軒屋船渡シ賃、妙見宮参詣ニ付入用
一〃銀札三匁〈私〉　小林村ニ而子供菓子代払入用
一〃銭弐拾四文〈私〉　吉野村茶料入用

一〃百文〈私〉
十月二日
一銭百三拾六文〈私〉
一〃弐百文〈私〉
三日
一〃三百五拾文〈私〉
一〃金札弐歩〈私〉
釣り壱貫三百文
一銭〃百文〈私〉
一〃五拾文〈私〉
一〃弐百文〈私〉
一〃金札壱歩壱朱〈私〉
釣り百文
一正〃金壱朱ト百文〈私〉
一銭〃百文〈私〉
一〃五百三拾六文〈私〉
四日
一金札弐歩〈内〉

野間村柿代払
妙見宮参詣御繕料さいせん
同所家内あんま代払入用
妙見宮御繕料さいせん御札料入用
同所米屋泊り代三人分払入用
戻り入り
小路村茶料入用払(笑)
保気村茶料入用(法貫)
風之口村柿代茶料払入用
亀山美濃屋中飯三人酒「(虫クイ)」払入用
戻り入り
同所ニ而 まんぢう代子供菓子代払入用
宇津根村船渡賃三人分払渡ス
細川宮辻夕飯代払渡入用
河原林庄五郎お菊死去ニ付香賃御酒料此表ゟ出ス

六日
一金札弐歩〈内〉
一入〃金札弐拾五両〈屯〉
一銭〃七拾四文
十月七日
一金札壱両〈買〉
八日
一銭三拾六文〈私〉
一正〃金壱朱〈屯〉
一〃金札三朱〈私〉
釣り百文
十日
一〈〇〉金札壱歩ト〈〇〉弐百文
一〈〇〉〃金札三朱ニ〈〇〉釣り百文
一〈〇〉〃銭七拾弐文

木挽勘次日用代之内金弐歩ト拾五匁賃分之内此表ゟ出ス
野尻彦七京屯所入用返済之分預り請取入り
柿弐ツ代払
御池丹波屋伊助印形代之内夫与七相渡ス
湯銭入用
持ぞう里壱足代払入用
田中蔵之助進上菓子代払
戻り入り
丹波屋新兵衛曳釣り壱足代払
雪駄壱足代払渡ス、右弐口材小ゟ出ス、但し借用分也
戻り入
湯銭弐度分入用右「(虫クイ)」
十一日
一金札拾両〈屯〉
一銭〃三拾六文〈私〉

西右内屯ニ而 中江村ゟ預り分相渡
湯銭入用

一〃金札壱朱ニ　〈屯〉　屯所入用干魚三合代扣へ払
　釣り百五拾文　戻り入
十三日
一金札弐朱ニ　〈買〉　柄袋壱ツ代払
　釣り三百文　戻り入
一〃金札壱歩ト五百文　〈屯〉　美濃庄中飯代扣へ、水口氏面会ニ付入用扣へ払
一〃銭百五拾文　〈私〉　羽織紐掛ケ壱組代払
一〃三拾六文　〈私〉　たばこ代払入用
十四日
一〃百五拾文　〈私〉　髪月代壱ツ代払入用
十月十四日
一銭三拾六文　〈私〉　湯銭入用
十五日
一金札三朱　〈私〉　たばこ壱玉代払分入用
一〃金札壱朱ニ　〈私〉　下駄はなご一足代払入用
　釣り百文　戻り入り

一金札弐朱　〈私〉　紺足袋壱足代津国屋払渡ス
一銭〃百文　〈私〉　わらじ壱足代払入用
一〃三百拾弐文　〈私〉　まんぢう弐十五代払入用
一〃金札壱両　〈内〉　杉坂はし政七月前払分〃高之内相渡ス、少〻不足

廿六日
一金札拾両　〈油〉　河原林油方大内七右衛門種代之内、夫伊之助此表〻渡ス
廿七日
一金札弐両　〈内〉　河原林内用宇津吉田権助人足六斗代之内夫弥助相渡ス、此表〻出ス
十一月二日
一金札弐両　〈内〉　右同断、大唐戸中苅賃之内此表〻田中次兵衛相渡ス
　正金出分
　〃正金三拾両弐朱　惣出金高
　此処元元正金分
　元正金八拾七両壱歩壱朱　元有高
　差引
　正金五拾七両三朱　差引之処
　此分改正金五拾七両壱歩壱朱　改有
　さし引正金弐朱　差引過上之事、但吟味致事
　元金札入金共
　〃金札百拾壱両弐歩壱朱　元金札有惣入金札高
　此処出金札
　〃金札九拾両三歩三朱　惣出金札
　差引金札弐拾両弐歩弐朱　差引之処
　此処改金札拾六両　改慥ニ有也
　差引金札四両弐歩弐朱　差引不足
〈又外ニ
　金札壱歩弐朱　おかねゟ借用有〉
〈合金札五両壱朱　全不足ニ相成吟味致事〉

【此間違則九月廿五日(カ)
一金札七両　若州高浜丹波屋久太夫帰国之節改此表ゟ貸
差引
改金札壱両三歩三朱　全不足分間違過上ニ相成申候吟味致事】
〃□(虫クイ)元有入分
〃銭五貫弐百九拾四文　元有高惣入高
此処江出分
〃銭三貫九百弐拾六文　惣出高
差引
壱貫三百六拾四文　差引之処
此処江改弐百六拾弐文　改慥ニ有也
さし引壱貫百弐文　差引不足吟味之事
札元有入分共
〃銀札拾九匁三分　元有分惣入高
此処江出分
〃銀札三匁　惣出札高
差引
銀札拾六匁三分　差引之処
此処へ改
銀札拾六匁六分　改慥ニ有也
さし引　三分　差引過上分吟味之事
改正金五拾七両壱歩壱朱
此内正金五拾弐両　土蔵江片附入ル、引

〃正金五両壱歩壱朱　改有
右者売帳面江附送り申候　十一月五日河原林内ゟ此表入り
改金札拾六両　続く帳面江附出ス
此処江金札四両　改有
合金札弐拾両　続く帳面江附出ス
改銭弐百六拾弐文　河原林内江附出シ内帳面江入、
改銀札拾六匁六分　此表引
右之通り金札銭差引不足之分情く吟味致候事

金札出入之扣

辰年十一月六日
一入正金五両壱歩壱朱　改有
〃
一入金札弐拾両　改有
〃
一入銭三貫文　改有
八日
一〃弐百五拾八文　千束宿之間わらじ三足代扣払
十日
一金札壱歩　出石城下岸田やニ而水口拙者下駄代扣へ相渡ス、拾壱匁四分ツヽ
釣り札弐匁弐分　戻り入り

一〃入札八匁六分五厘　日下部氏より両替分預り此処入
一〃札弐匁　豊岡町桑木満分壱ツ代払
一〃銭三拾六文　妙見宮様江さいせん入用
一十四日札三匁七分　越後屋ニ而入用筆三本代払
一十五日入札壱匁　野上長兵衛当座借用入り
一〃七分　湯枝(場)はみかき代入用
一〃五匁　半紙弐状筆弐本代之内扣へ、但し四匁野長ゟ出ス
一十九日銭百文　文珠参詣ニ付餅代払入用
一十九日金札四両三歩　宮津筆屋ニ而細紙弐疋代払
一廿一日札四分　千歳峠ニ而みかん代久保氏へ貸ス
一〃銭六拾文　丹後元太神宮両宮参詣ニ付さいせん入用
一廿二日金札三両　福知山中飯場ニ而野上氏へ相渡ス
一〃入札壱匁五分　水口氏江久美浜札両替受取入り
一〃銭百五拾文　右両替ニ而同人へ相渡ス
一〃百文　土師宿ニ而たばこ代払入用

一廿三日金札五両　同所両国屋ニ而野上氏へ相渡ス貸
一廿四日入金札三両　須知宿大黒屋ニ而野上氏ゟ戻り入り、差引金五両也扣へ
一〃銭百文　亀山河原町ニ而髪月代壱ツ払
一廿五日〃三百文　同所美濃喜ニ而細引代之内水口へ相渡扣分
一廿六日〃四百文　京都木曽利ニ而あんま代払入用
一廿七日入金札三拾両　水口備前守木曽利ニ而当座分借用入り
一〃金札拾両　橘屋仙吉ニ而屯所ニ而刀拵代之内夫正親へ相渡ス
一〃金札壱歩　屯所ニ而芝居払分西右内へ渡し扣へ分かし
一十一月廿九日金札弐両　西右内屯所ニ而取替当座貸分
一〃金札壱両三歩　目利てつぽうはつち壱具分代払戻り、但金三朱ト三百文入
釣り弐貫百文　妻揚枝六把代払入用
一〃銭百文　和せい唐沓壱足代払入用
一〃正金壱両　髪月代壱ツ代払入用
一〃銭百三拾六文　湯銭入用
一十二月朔日〃三拾六文

一〃 壱貫三百文　たばこ壱玉代払入用
一〃 〃 弐百文　沓ひも五尺代払渡ス
一〃 入金札五拾両　水口備前守当座借用ニ而使卯之助
一〃 金札五拾両〈西屯分〉　西右内当座取替分相渡ス
一二日 金札弐歩　津国屋拾役足袋四足代与七殿相渡ス
一〃 金札壱両　河原林正親へちり紙壱〆代之処へ屯ニ而相渡ス
一〃 銭三百七拾弐文　土産まんぢう三十代払入用
一〃 三拾弐文　堂之庭ニ而茶菓子代払入用
〆 入金元金 金札百三両 又外ニ正金五両壱歩壱朱　元金惣入金高
〆 此処江出金 金札七拾八両弐歩 又外ニ正金壱両　出分惣金高
差引 金札弐拾四両弐歩 正金四両壱歩壱朱　差引之処
此処改金札弐拾四両弐歩ト 正金四両壱歩壱朱　改慥ニ有也
〆 銭元入分 銭五貫百文　元銭惣入分高
〆 此処江 銭三貫六百八拾弐文　惣出分高
差引 壱貫四百拾八文　差引之処
此処江改 壱貫百七拾弐文　改慥有
さし引 弐百四拾六文　差引不足ニ相成吟味之事
札入分 〆 拾三匁三分五厘　惣札入分高
此処出分 〆 拾壱匁八分　惣出分札高
差引 壱匁五分五厘　差引之処
改久美浜札壱匁五分五厘　慥ニ有也

右之通り出入勘定無相違帳合ニ相成候得共、銭少〻不足ニ相成候、依而如件

明治元年辰十二月二日帰宅致ス

覚

一 辰年十二月三日 入改金札弐拾四両弐歩　改有
一〃 入改正金四両壱歩壱朱　改有

一〃入改錢壱貫百七拾弐文　改有
一〃入改札壱匁五分五厘　改有
六日
一入金札八拾両　宮村嘉左衛門灰屋赤嵯峨山手銀之内請取入
十二日
一金札三両　中江村平七根苧代之処へかし、夫宇吉
一〃金札壱両　内為吉嵯峨およね迎ニ付小遣イ相渡ス
一〃正金弐朱半紙弐軒扇子箱杉弐本入壱　河原林圧五郎ゟ結納ニ付祝儀入用
十三日
一㊐金札八拾両　囲　小塩村上野平兵衛元預り銀之内夫文左ヱ門勘三郎へ相渡ス
一入〃金札弐百両　小倉町田中為蔵借用請取入り
一〃金札四拾両　辻村庄屋佐兵衛収納之処へ夫江相渡ス
十五日
一入金札百両　井戸村又市太郎影裏杉立毛代之内請取入り
十六日
一金札拾両　河原林内江入用之分此表出ス
十二月十六日
一金札弐拾両　林町勘三郎当座分かし
一入〃錢弐百六拾弐文　前勘定差引尻之分此処へ入り

〃入金札三百八拾両　惣口ニ入金札高
又外ニ金札弐拾四両弐歩　元持参有金分
合金札四百四両弐歩　惣高
此処江出分
〃金札百五拾四両　口〻惣出金高
差引
金札弐百五拾両弐歩　差引之処
右之通改慥ニ有之、則河原林賄方之分江入帳致、此表勘定相済申候、以上
外ニ正金元金四両壱歩壱朱　元改有高
此処正金弐朱　右之内ゟ出高之分
差引
〃正金四両三朱　差引之処改慥ニ有之也
右之通改慥ニ有之、前同断賄方分江同断之事
元有錢入分
〃錢壱貫四百三拾八文ト　元有高
久美浜県札壱匁五分五厘　入錢高
右者改慥ニ有之、前同断別段ニ致方附有之候事。

右者何連茂其儘ニ而致置、尚又跡之口江改附出ス事
明治二年己正月吉日

覚

正月十三日
一入正金八両壱歩　河小源太改京都へ持参致ス
一〃金札百両　右同人、同断
一入〃銭一貫九百三拾文　右同人、同断
一銭弐百文　杉坂はし政年玉遣ス入用
十四日
一金壱歩　釣り九百文　山形屋ニ而白足袋壱足代戻り入り
一銭〃弐百文　たばこ代入用払
一㊀〃金弐歩　回　下駄弐足代払、但し壱足金三朱ト五百文水口氏金壱歩ト百文貸
十五日
一正金壱歩　若代四郎左衛門年礼ニ付下女とし玉入用
十六日
一銭三拾六文　湯銭入用
一〃〃百文　社司惣代名札奉書壱枚代扣へ払入用
十七日
一〃百三拾弐文　髪月代壱ツ代払
一金札〃壱歩　両替天保銭かへ相渡ス
正月十七日
一入銭弐貫四百文　右替銭請取入り
一金札〃壱両　上嵯峨小林喜間太内おたみ江よねの礼麁品料入用
外ニ松賀礼六枚持参
一㊀〃銭弐貫百文　回　嵯峨御所様御年玉包之内扣へ入用
一㊀〃九百文　回　嵯峨御所様御年玉包之三ツ分不足ニ付御殿ニ而出ス扣へ
十八日
一金札五両　小林喜間太およね入用扣物之内おすがへ相渡ス
一〃金札弐歩三朱　葉室殿年玉山科家年玉との小豆五升代払入用、此内弐升西善分扣へ
十九日
一金札五両　高辻柳馬場西へ入桝屋勘兵衛椀弐ツ鏡台壱ツ鏡家八寸六寸鏡台戸棚上置壱ツ代金四両三歩金壱歩西氏分扣へ渡ス
一〃金札壱両　寺町桝屋平兵衛水引色〻代払渡ス
釣り銭五百五拾文　戻り入
一金札拾両　堀川加賀屋甚三郎払分之内相渡ス、但老人江直ニ渡ス
廿日
一銭三拾六文　湯銭入用
一〃〃五百文　土産まんぢう弐拾代払入用
正月廿日
一銭百七拾弐文　杉坂ニ而わらじ弐足代払入用、但し西右内分共扣へ
正金出分
正金壱歩　出金高

〃金札出分　惣出高
〃金札弐拾三両弐歩三朱
引残り　差引之処
正金八両
金札七拾六両壱歩壱朱　改有也
右之通改慥ニ有出入合申候如件
〃銭元入分　元持参分惣入分高
〃銭五貫七百八拾文
此処江出分
〃銭四貫三百八拾文　惣出分高
差引　差引之処
壱貫四百文
此処江　改慥ニ有也
改貫三百四拾文
さし引　差引不足吟味致事
五拾四文
正月廿日帰宅

巳年二月朔日
一銭三拾六文　上京ニ而湯銭入用
〃
一金札壱両壱歩壱朱　下立売河内屋清兵衛紺足袋六足代払
二日
一銭百五拾文　髪月代壱ツ分払入用
〃
一〃三拾六文　湯銭入用
〃
一入金札三歩　中江村西右内殿屯ニ而当座借用
〃
一入金札拾両　同村小畠平八郎、但し小金札当座分借用此表入り
〃
一金札壱歩　山本家世話役斎藤氏へ菓子一箱代払、但し河民部分
戻り入
釣り七百文
〃
一金札弐両壱朱ト銭百文〈正金〉　今出川丹後屋吉兵衛辰三月前払分〃高相渡ス
〃
一㊇金札壱歩　囘〈八ケ〉　室町木曽屋利兵衛八ケ村名主惣代年礼之節泊り年玉遣ス分扣へ入用
〃
一㊇金札七両弐歩三朱　囘〈八ケ〉　室町木曽屋利兵衛八ケ村名主諸家様年礼ニ付河恵水口氏拙者供弐人泊り造用〃高払分相渡ス
釣り五百文
戻り入
三日
一銭弐百五拾文　金札両替ニ付金壱朱ト弐百五拾文、切賃入用渡ス
〃
一金札拾両　中江村小畠平八郎当座借用之分返済ス、但し屯所ニ而
二月三日
一銭弐百文　黒門山本先生様ニ而民部飯代白米四斗代之内燭銭扣渡ス
〃
一金札二朱　国分たばこ半玉代払渡ス
五日
一銭三拾六文　湯銭入用

一〃〃四拾八文
一金札三歩三朱〈米〉
一金札壱朱
一金札壱朱
一金札壱歩
一金札壱朱
一金札壱歩
一金札六両壱歩ト銭四百文
六日
一銭弐百五拾文
一金札壱歩
一銭拾弐文
一〃弐百文
二月六日
一金札三拾三両三歩　〈米〉
弐朱
釣り百三拾弐文
一金札弐歩ト銭弐百文

たばこ代払
三条丹波屋新兵衛おかね祝儀下駄曳釣りそうり三足代払
三条床喜三郎髪月代四ツ代払
右同人へ御祝儀遣ス入用
姉小路妙見宮様御膳料辰年分亀太郎へ相渡ス
南芝居たいこ入ニ付辻子へ渡シ扣へ
丸太町藤屋清右衛門卯極月辰年払分〆高相渡し済
白木小紬直シ物代払入用
縄手ニ而茶盆壱枚代払
祇園様さいせん入用
小林花之家ニ而中飯代之内端銭扣へ、但し西谷与七拙者二人分
松原下村大丸店ニ而およね色〻買物代〆高払渡ス
戻り入
四条明石屋久兵衛たばこ入壱ツきせる共代払入用

一〃金札壱両
七日
一銭三拾六文
一金札弐両三朱　〈半〉〈米〉
一〃金札三両壱歩三朱〈米〉
ト銭三拾弐文
一〃金札壱朱
釣り三百文
一〃金札七両弐朱　〈半〉〈米〉
釣り弐百拾弐文
一〃金札壱朱
釣り七拾弐文　戻り入
一銭〃三拾六文
一〃金札壱朱
釣り六拾四文
二月七日
一金札壱両

(マヽ)
綿小路尾張屋万助羅砂目らん壱ツ代相渡ス、引残り壱歩不足かり分
湯銭入用
高辻松屋宗助両掛ケ上下弐荷代手付金相渡ス
松原下村大丸店跡買物色〻代払、尤およね分
寺町鉄砲そうじ棒壱本代払
戻り入
唐物屋色〻買物代払〆高渡ス
戻り入
蜂三津壱徳利代払相渡ス
規世類羅を仕替壱本代払
女今川本一冊おすみ分払渡ス
戻り入
ゆうぜん細壱丈壱尺代近喜払

一〃金札壱両　材木屋亀太郎年玉として遣ス入用
一〃金札壱朱ト弐百文　張籠壱ツ代払渡ス入用
一〃銭百文　九日　屯所ニ而蝋燭壱丁代払入用
一〃弐百文　茶合壱本代払
一〃金札壱歩　茶きひしょ壱ツ代払
釣り六百文　戻り入
一〃銭五百文　西右内取替かし
一〃百文　揚枝四本代払
一〃金札壱歩　寺町大丸店火のし壱ツ代払
一〃金札弐両〈米〉　竹屋町寺町西へ入近江屋吉兵衛長刀弐振代手付相渡ス
一〃銭三拾六文　湯銭入用
十日
一〃金札壱朱　家来善吉帰村之節菓子代相渡ス
一〃金札壱歩壱朱ニ〈半米〉　四条下村店ニ而元結拾把油五本代払渡ス
釣り百七拾弐文　戻り入
一〃銭弐百文　杉揚枝拾把代払渡ス

二月十一日
一〃金札弐両〈半米〉　松屋宗助両掛ケ弐荷代之内皆済相渡ス
一〃金札壱歩　辻子ニ而ひる代分払相渡ス
十二日
一〃入金札拾両　河原林正親国元ゟ持参、此表入り
一〃銭二百文　かん人坊見物ニ付茶料入用
一〃金札三両壱歩　泉屋喜兵衛刀ふり頭小殿金具代払渡ス
一〃金札壱歩　四季ニ而中飯代悴弐人分払入用
釣り七百文　戻り入
一〃銭弐百七拾弐文　羽織総掛ケ弐ツ代払渡ス
一〃金札壱両三朱〈米〉　六角袋屋風呂敷大小弐拾枚代払渡ス
釣り百六拾八文　戻り入
一〃金札三両　辻子おかね拙者造用之内渡ス、但しふとん借り賃共
一〃金札壱朱　同所おえい江年玉遣ス入用
一〃金札三朱　寺町ニ而茶こぼし壱ツ代払渡ス
一〃銭八拾八文　屯所ニ而帰宅之節わらじ代払入用
一〃三拾六文　湯銭入用

二月十三日
一〃弐百五拾文　土産まんぢう弐拾代払相渡ス
一〃三拾六文　鳴之堂地蔵尊さいせん入用
一入〃四百文　民部山本家謝礼ニ付四百五拾文扣分之処河庄ゟ受取入り、附落分
一〃四拾八文　山国隊帰国ニ付一宮大明神御霊大明神さいせん入用
入金札
〆金札弐拾両三歩　惣入金札高
外ニ元金札七拾六両壱歩壱朱　元持参高
合金札九拾七両壱朱　惣金高
又外ニ正金八両也　元持参有之
此処ニ出金札
〆金札九拾三両　惣口〻出金高
又外ニ正金壱朱也　払分此処ゟ出分
差引金札四両ト
正金七両三歩三朱　差引之処
此処ニ改
金札四両三朱ト　改慥ニ有之也正金分差引合也
正金七両三歩三朱分
さし引
金札三朱　差引過上ニ相成吟味致事
銭入分
〆銭四貫三拾弐文　惣口〻入銭高
外ニ元壱貫三百四拾文　元持参有之分
合銭五貫三百七拾弐文　惣高
此処ニ出分
〆銭四貫三百拾六文　惣口〻出分高
差引
壱貫五拾六文　差引之処
此処ニ改四百七拾九文　改慥有也
さし引
五百七拾七文　差引不足ニ相成、則金札過上ニ相成候故不足之事
〈此内四拾八文　文字銭余之置也〉
引残り
銭五百弐拾九文　改有高也
〈改四百三拾壱文　改有高也〉
右之通勘定出入相済申候、以上
明治弐年巳二月十三日帰宅致ス
明治弐年巳正月ゟ山国庄八ケ村
社司名主中用扣
河原林従五位控分
一㊇弐拾五匁　名主惣代年礼ニ付木曽利年玉金壱歩扣へ
一㊇五拾匁　右ニ付水口氏拙者下駄弐足代金弐銭扣へ
一㊇三拾壱匁　嵯峨御所様年玉包銭之内銭三貫百文代扣へ
一㊇七百六拾八匁七分五厘　木曽利泊り水口河原林両人下部共金七両弐歩三朱扣へ

一㊇弐拾壱匁弐分五厘　木具屋又右衛門扇子台木具代色〻金三朱ト弐百五拾文扣へ

一㊇弐百弐拾七匁四厘　右六口九百四十六匁巳正月ゟ十二月迄利足

一㊇百六拾匁　右年礼夫代家来共八人ツヽ〆拾六人代

一㊇弐拾五匁　八ケ宮山分下役見分ケニ付金壱歩下役へ渡ス

一㊇三拾匁　下役弐人泊り白米弐升相渡ス

一㊇拾八匁　祖父谷宮山跡印山下店へ売払之節鯖三本代

一㊇五匁五分　右同断ニ付焼鯖壱本代

一㊇弐拾匁　塩小鯛五ツ代右同断ニ付入用

〆㊇壱貫三百八拾壱匁五分四厘　河原林従五位巳十二月扣高

（裏表紙）

山国郷士

河　原　林　小　源　太